



菊 監 第 28 号
令和 6 年 12 月 5 日

菊 川 市 長 長谷川 寛 彦 様

菊川市議会議長 山 下 修 様

菊川市教育長 松 本 嘉 男 様

菊川市監査委員 早 川 隆 弘

菊川市監査委員 内 田 隆

令和 6 年度 財政援助団体等監査結果報告

地方自治法第199条第7項の規定に基づき財政援助団体等監査を実施したので、その結果を同条第9項の規定により、次のとおり報告する。

目 次

第1	監査期間	1
第2	監査会場	1
第3	対象と区分	1
第4	監査事項	1
第5	監査方法	1
第6	総括的所見	1
第7	団体毎の監査結果と所見	
(1)	社会福祉法人 菊川市社会福祉協議会	2
(2)	公益社団法人 菊川市シルバー人材センター	3
(3)	菊川市商工会	5
(4)	菊川市観光協会	7
(5)	株式会社 SBSプロモーション	8
(6)	菊川市スポーツ協会グループ	10

(注記)

- 1 文中の金額は原則として千円単位で表示し、いずれも単位未満は四捨五入とした。このため、合計金額が一致しない場合がある。
- 2 符号の用法は次のとおりである。
「△」…減または赤字を示す
- 3 各団体決算状況における増減内容の金額は、対前年度増減額である。

令和6年度 財政援助団体等監査結果報告書

第1 監査期間

令和6年10月2日(水)～10月8日(火)

第2 監査会場

各団体事務局と菊川市役所本庁舎4階第1委員会室

第3 対象と区分

- (1) 社会福祉法人 菊川市社会福祉協議会（補助金交付団体）
- (2) 公益社団法人 菊川市シルバー人材センター（補助金交付団体）
- (3) 菊川市商工会（補助金交付団体）
- (4) 菊川市観光協会（補助金交付団体）
- (5) 株式会社 SBSプロモーション（菊川文化会館アエル指定管理者）
- (6) 菊川市スポーツ協会グループ
（市体育館及び市体育施設を付帯する都市公園等指定管理者）

第4 監査事項

地方自治法第199条第7項の規定により、「市が補助金、交付金、負担金、貸付金、損失補償、利子補給その他の財政的援助を与えているものの出納その他の事務の執行で当該財政的援助に係るもの」また、「市が法第244条の2第3項の規定に基づき公の施設の管理を行わせているもの」について、公金及び公の施設の管理に係る事務が適正に執行されているかについて監査する。

第5 監査方法

令和5年度事業報告書及び決算書に基づき、出納及びその他の事務事業の執行状況について、必要な資料の提出を求め、それぞれの責任者及び担当者から経理等について聴取するとともに、関係書類の抽出検査を行った。

第6 総括的所見

財政援助団体等に対する財政的援助等に係る出納その他の事務の執行は、法令等に沿って適正に行われているものと認められた。

なお、監査実施時に意見を述べた事項等については、必要に応じて所要の改善措置を講じるようお願いしたい。

所管課においては、指定管理者及び財政援助団体の経営状態を的確に把握し、補助金・交付金・負担金の目的に沿った事業執行がなされるよう、適切な管理監督と事業運営指導に努められたい。

第7 団体毎の監査結果と所見

(1) 社会福祉法人 菊川市社会福祉協議会

ア 補助金等の名称、交付要綱

菊川市社会福祉協議会補助金

社会福祉法人菊川市社会福祉協議会補助金要綱

イ 令和5年度決算

事業活動収入計 241,518,729円

(内補助金額 60,685,537円)

事業活動支出計 274,078,017円

差引残額 △32,559,288円

ウ 団体概要

菊川市社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な組織として、自治体や目的を一にする様々な活動主体と協働し、地域共存社会の考え方に立った住民主体の地域福祉活動の活性化に努めており、「誰もが安心していきいき暮らせるまち」を基本理念に掲げ、多様な福祉ニーズや福祉課題等の解決に向けた取り組みを行っている。職員総数は52名（正規職員19名、嘱託職員16名、非常勤職員17名）である。

エ 補助金

令和5年度の市の補助金総額は51,062千円で、その中から法人運営事業の45,679千円が監査対象事業となった。また、その他の補助事業として、地域福祉活動推進事業3,913千円、福祉総合相談事業1,200千円、ボランティア団体活動推進事業270千円を交付している。

オ 事業内容

「法人運営事業」は職員の人件費及び事務費、「地域福祉活動事業」は福祉団体への助成金支給、障がい者などへの地域福祉の活動支援等、「福祉総合相談事業」は心配ごと相談・結婚相談の相談員報酬や費用弁償等、「ボランティア団体活動事業」はボランティア団体への活動支援事業である。

会務の運営として理事会を4回、評議員会を3回開催し、会計監査は決算監査を5月に、月例会計監査を毎月実施している。

法人運営事業では、法人としての経営管理が重要となるため、事業全体の管理や正確な事業執行が把握できる体制整備と将来的に安定した組織化となるよう努めた。

地域福祉活動推進事業では、福祉のまちづくりを基本とした事業を実施するため、小地域福祉活動の推進を図った。職員が積極的に地域へ出向き、各地区

センターを拠点とし、地域住民と一緒にその地域を考え、共に小地域福祉活動を展開した。

福祉総合相談事業では、複雑かつ多様化する福祉ニーズに応じた総合的な相談事業を実施し、来所及び電話相談の受付や必要に応じて関係機関との連携を図り、継続的な支援を行った。

ボランティア団体活動推進事業では、養成・研修を行うとともに、一般住民への啓発、ボランティアの情報収集と提供、相談受付など、ボランティア活動推進に努めた。

介護保険事業では、5年度からの事業の見直しにより、介護事業及びヘルパー事業を縮小したものの、地域で暮らす高齢者等を支える在宅サービスの担い手として、地域にとって不可欠な存在になることを目指し介護サービスの実施に努めた。

児童館事業では、18歳未満のすべての子どもを対象とし、地域における遊び及び生活の援助と子育て支援を行い、子供の心身の育成に努めた。

子育て支援センター事業では、子育て親子の交流促進と場の提供、子育てに関する相談や講座等を通して子育ての支援を行った。

その他事業では、地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進評価及び、広報・啓発活動を行った。

カ 所見

補助金に係る出納その他の事務の執行は、法令等に沿って適正に行われているものと認められ、補助目的に即した事業執行がなされていた。

地域福祉の推進にあたっては、地域の特性を考慮した多様な福祉ニーズを的確に捉え、高齢者から子どもまで様々な世代が直面する生活課題に対する的確なサービスの提供が求められている。

今後の福祉活動を見据える中で、補助事業の成果と課題を定期的に検証し、効果的・効率的な事業を展開するとともに、安定的な協議会運営に向けた取組を継続し、市民との協働による「地域の福祉力」の更なる強化に取り組まれない。

(2) 公益社団法人 菊川市シルバー人材センター

ア 補助金等の名称、交付要綱

シルバー人材センター育成事業費補助金

公益社団法人菊川市シルバー人材センター育成事業費補助金交付要綱

イ 令和5年度決算

事業活動収入計 201,635,067円

事業活動支出計 198,179,354円

収支差額	3, 455, 713円
前期繰越収支差額	38, 326, 198円
次期繰越収支差額	41, 781, 911円
補助金額	10, 208, 000円

ウ 団体概要

シルバー人材センターは、定年退職者等の高齢者の要望に応じた、臨時的かつ短期的な就業またはその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保するとともに、生きがいの充実及び社会参加の推進を図ることにより、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とした公益法人である。

菊川市シルバー人材センターは、平成18年4月1日に「菊川町シルバー人材センター」と「小笠町シルバー人材センター」の統合により設立されたもので、平成24年4月1日に公益社団法人の認定を受けている。

令和6年3月末の会員数は347人、就業率は87.9%（前年度比0.1%増）となっている。

エ 補助金

令和5年度の市補助金額は10,208千円で、内訳は人件費4,343千円、管理費1,239千円、事業費4,626千円である。

オ 事業内容

シルバー人材センターは、定年退職者など的高齢者に対する就業機会を確保するとともに、生きがいの充実や社会参加の推進を図ることで、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与しており、自立的かつ効果的な事業推進に努めている。

企業における定年年齢の引上げ、継続雇用制度の導入などにより、全国的にシルバー人材センターの会員数は減少傾向にある。当センターでは会員及び就業機会の拡大を重点に取り組んでおり、令和4年度は会員の増減がなかったが、令和5年度は22人減少となった。

令和5年度の事業実績は、受注件数2,339件（前年度比7.5%減）、就業延べ人員38,894人/日（前年度比10.2%減）、事業収入は178,281千円（前年度比3.0%減）となった。

公共・民間別の事業収入は、公共が前年比2.2%増の48,021千円、一般企業が前年比3.4%減の85,745千円、個人家庭が前年比1.2%増の44,514千円であった。

主な事業としては、新規会員確保のための自主的な事業活動の強化、女性会員の入会強化のための女性委員会の設立、就業機会の確保と適正就業の推進、安全就業対策の徹底、労働者派遣事業の推進強化等に取り組んだ。

この他にも、会員を対象とした研修会・講習会の開催や公共施設の清掃・除

草等の奉仕活動などの地域への貢献活動も行っている。

カ 所見

補助金に係る出納その他の事務の執行は、法令等に沿って適正に行われているものと認められ、補助目的に即した事業執行がなされていた。

シルバー人材センターの事業運営においては、入会者数の減少や会員の高齢化が進む中で、会員の増加を促すための啓発活動や女性委員会の新設、新たな就業機会の拡大などに積極的に取り組んでいる。受注件数及び事業収入がやや減少しているものの経営は安定している。

デジタル化による事務の効率化を推進するとともに、インボイス制度への対応やフリーランス新法による新契約方式への変更など国の法改正への対応も進めている。

シルバー人材センターは、高齢者の「居場所」や「出番」の提供や「健康長寿」「生涯現役社会」の実現に向けた大変重要な役割を果たしており、菊川市が「お達者度」男性部門で県内1位となったことも相俟って地域社会からは大きな期待が寄せられている。今後も経営の健全化と効率的な事業運営を進めるとともに、会員同士が強調しながら質の高い就業に努め、地域に密着し市民に愛され親しまれる組織づくりに取り組まれない。

(3) 菊川市商工会

ア 補助金等の名称及び交付要綱

菊川市商工業観光振興事業費等補助金

菊川市商工業観光振興事業費等補助金交付要綱

イ 令和5年度決算

収入合計 144,381,184円(補助金額 53,825,565円)

支出合計 122,230,299円

収支差額 22,150,885円

ウ 団体概要

菊川市商工会は、地域内における商工業の総合的な改善と発展を図り、併せて社会一般の福祉の増進に資することを目的とした会員によって運営されている組織である。主な事業は、融資の斡旋、経理・税務の指導、経営指導、情報発信などである。

令和6年3月末の会員数は1,162会員(個人682、法人444、その他36)で、前年度比で個人6会員の減、法人3会員の増、その他4会員の減、組織率は68.2%で、前年度と比較して0.8ポイント下降している。

エ 補助金

令和5年度の市補助金額は14,285千円である。その中から経営改善普及事業費10,103千円が監査対象事業となった。また、その他の事業として、消費拡大事業費3,382千円、工業振興事業費800千円となっている。

オ 事業内容

菊川市商工会では、事業計画に基づき事業者への支援を展開し、地域の経済団体として多様な事業を行っている。令和5年度は、新型コロナウイルスの影響によりデジタル化やIT活用が急速に進展し、金融支援を受けて返済を開始した企業が増えたことから、助成金や補助金の活用による資金調達支援を通じて事業の継続と成長を支援した。また、インボイス制度や電子帳簿保存法への対応を支援するため、経営指導員、窓口相談員、専門家派遣による特別相談も実施した。

地域活性化の活動に関しては、伴走型小規模事業者支援事業を活用した経営塾や専門家派遣といった菊川市商工会独自の支援事業により、補助金相談等を行い、多くの事業者の支援と地域の活性化に寄与した。

組織強化の一環としては、レシートラリー事業を実施し、市内外からの飲食店の利用を促進し、飲食店支援に貢献した。

イベント開催については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた「菊川夜市」を「きくはなび」と合わせて、アエルで開催し、大ホールが満席となるなど盛大に開催することができた。

これらの活動を通じて、令和5年度には新規加入38事業者を迎えることができ、組織強化に繋げることができた。

カ 所見

補助金に係る出納その他の事務の執行は、法令等に沿って適正に行われているものと認められ、補助目的に即した事業執行がなされていた。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、脱コロナへの動きが見られる年となった。国、県、市からのさまざまな支援策に対して適切な対応が図られ、相談事業を充実させたことなどにより、個人会員は減少したが法人会員は増加した。しかし、最低賃金の引き上げ、物価の高騰、人手不足などの要因により、中小企業は厳しい状況に立たされており、特に、飲食業やサービス業は困難な経営環境に直面している。国や県などからの情報収集を通じて、地域経済や地元企業に有益となる補助金などの推奨と活用をお願いしたい。

引き続き、地域内の商工業の総合的な発展を目指し、異業種参入などを通じた新規会員の獲得に努め、会員数の増加と地域経済の活性化に向けた取り組みを進められたい。また、県内の他市町の商工会との広域連携を図りつつ、組織体制と財政基盤の強化に繋げられることを期待したい。

(4) 菊川市観光協会

ア 補助金等の名称及び交付要綱

菊川市商工業観光振興事業費等補助金

菊川市商工業観光振興事業費等補助金交付要綱

イ 令和5年度決算（菊川市観光協会補助金）

収入決算 20,649,499円（補助金額 9,438,000円）

支出決算 20,129,208円

差引残額 520,291円

ウ 団体概要

当協会は、菊川市及びその近郊の観光事業の振興を図り、地方文化、産業の発展向上に資するため、総務企画事業、イベント事業、誘客宣伝事業等を展開している。令和6年3月末の会員数は147会員（法人、団体及び個人）である。

エ 補助金等

令和5年度の観光協会補助金は9,438千円で、内訳は事務局長、臨時職員2名分の賃金、印刷製本、機器リース、車両管理等の事務費、各種イベント実施事業費である。

オ 事業内容

観光協会の支出のうち事業費は3,288千円で、内訳は総務企画事業878千円、イベント事業865千円、誘客宣伝事業1,545千円である。

総務企画事業では、先進地の視察やふるさと観光大使の任命、新規会員の加入促進を行い、ホームページやSNS、テレビなどのメディアを通じた情報発信等を実施した。

イベント事業では、「菊川桜マルシェ」「黒田家代官屋敷梅まつり焼き雛展・竹あかり展」の開催に加え、Cityマラソンなどの市内イベントへの出展などを行った。

誘客宣伝事業では、観光キャンペーン、パンフレット・チラシ作成、ふるさと納税返礼品提供事業、誘客PR事業、獅子ヶ鼻碧マルシェ（おひざもと市）開催事業などを行った。

委託事業として、菊川の魅力発信・交流促進事業では、かわさき市民祭への出展や市内に宿泊する大学野球等のもてなし事業を実施し、市内周遊促進事業では、レンタサイクルを活用した周遊促進のためのモニターツアーやマップ作成を行い、菊川市の産業や自然、地域文化などの魅力を広く発信し、市内外の人々との交流を深めた。

また、観光協会が組織する実行委員会形式で開催した「菊川産業祭」には子どもからお年寄りまで約 25,000 人が参加して会場を盛り上げた。

カ 所見

補助金に係る出納その他の事務の執行は、法令等に沿って適正に行われているものと認められ、補助目的に即した事業執行がなされていた。

様々な観光宣伝事業を通じて市の産業や多様な魅力を市内外へ幅広く情報発信するとともに、観光協会会員や市民、行政が一体となったイベント活動、誘客活動等を積極的に展開しており、市民の交流や地域の活性化、市のイメージアップに寄与している。

今後とも、菊川市の観光資源を効果的に活用し、創意工夫に富んだ活動を継続的に実施することにより、交流人口の増加や市の知名度向上を図り、市民が菊川市を愛する心の醸成に繋げていかれることを期待したい。

(5) 株式会社 SBS プロモーション

ア 指定管理に関する協定

菊川文化会館アエルの管理運営に関する協定書

イ 令和 5 年度決算

収入合計 115,147,523 円(指定管理料 68,976,000 円)

支出合計 118,403,348 円

収支差額 △3,255,825 円

※市からの補填(文化会館管理運営負担金 9,319 千円、休館補償金 748 千円)

ウ 団体概要

指定管理者の「株式会社 SBS プロモーション(静岡市駿河区)」は、昭和 48 年 10 月に設立され、広告マーケティング事業、就職支援事業、研修・教育事業、保険事業、指定管理事業、スポーツビジネスなど、幅広い事業を展開している。指定管理事業においては、県内各地の文化会館や生涯学習センター、科学館等の指定管理者として施設の管理・運營業務を行っている。

エ 指定管理料

(株)SBS プロモーションへの指定期間は、現在 3 期 2 年目となる。2 期の期間は平成 28 年度から令和 2 年度までの 5 年間であったが、新型コロナの関係により令和 3 年度まで 1 年間延長し、3 期は令和 4 年度から令和 8 年度となっている。(指定管理料総額 344,880,000 円)

オ 事業内容

(株)SBS プロモーションは、地域住民やコミュニティセンターとのつながり

を深め、優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、文化の育成・発信・継承することを基本方針として、公平・公正な運営と利用者が快適かつ安心して利用できる施設の維持管理に努めている。

5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたことに伴い、5年ぶりに行われた「フジオーゼックスの納涼祭」や新規に開催された「商工会夏まつり夜市」、昨年開催できなかった菊川吹奏楽団の「定期演奏会」や「菊川市産業祭」などが開催されたため、大ホールの利用者が増加した。

照明負荷設備の改修工事のために、小ホールは12月、大ホールは1月8日から2月29日までの期間で利用が制限されたが、施設全体の開館日数は307日で、前年度よりも2日増加した。貸館利用回数は2,775回で前年度比93回(3.5%)増加し、利用人数は116,912人で前年度比44,683人(61.9%)と大きく増加した。

自主事業を9本、受託事業を8本実施したほか、自主講座を4回開催し、予定していた全事業を実施し、芸術文化の鑑賞機会の提供が図られた。

広報宣伝活動については、「広報菊川」、会報「OK!ワーク」への告知掲載や自治会配布文書、K-MIXのラジオ番組やフリーペーパーでの告知、静岡新聞の広告、SNSを活用した広報など、積極的な宣伝活動を行った。

収支の状況については、施設利用料収入は前年度比8.2%増の12,690千円、事業収入は前年度比4.5%増の21,151千円となり、収入合計は前年度比2.8%増の115,148千円となった。一方で支出は、人件費、事務費、事業費、管理費、一般管理費の全ての項目が前年度よりも増加し、合計で前年度比6.1%増の118,403千円となった。結果として支出が収入を上回ることであり、収支差額は3,256千円の赤字となった。

なお、令和5年度においては、「新型コロナウイルス感染症の影響による利用料収入減少分」は補填されていない。

カ 所見

指定管理料に係る出納その他の事務の執行は、法令等に沿って適正に行われているものと認められ、協定内容に即した事業執行がなされていた。

新型コロナウイルスの5類移行の影響もあって開館日数、貸館利用回数、利用人数が前年度に比べてすべて増加し、計画した事業を全て実施することができたことは大きな収穫であった。

一方で、物価高騰による経費の増加は避けることができず、管理費は前年度比8.5%の増となり、特に光熱水費は前年度比29.5%増と大幅に増加した。支出合計でも6.1%増加しており、今後の施設運営はより厳しいものとなることが予測される状況となっている。

引き続き、事務事業の効率化と可能な限りの経費削減に努め、市民へのサービス向上と本市の魅力の発信及び文化振興へとつながる運営を続けられることを期待する。

また、利用者が安全で快適に施設を利用できるよう、計画的・効率的な維持・管理と迅速かつ的確な修繕を実施されたい。

(6) 菊川市スポーツ協会グループ

ア 指定管理に関する協定

菊川市体育館、体育施設を付帯する都市公園等の管理運営に関する協定書

イ 令和5年度決算

収入合計 89,057,584円(指定管理料 77,005,000円)

支出合計 93,574,048円

収支差額 △4,516,464円

ウ 団体概要

指定管理者の「菊川市スポーツ協会グループ」は、代表の「特定非営利活動法人菊川市スポーツ協会」と「株式会社オーチャー」により構成されている。

菊川市スポーツ協会は、スポーツ少年団本部、総合型地域スポーツクラブ「アプロス菊川」を含む19の競技団体で組織され、市のスポーツ振興を推進する組織として、市民の体力及び競技力の向上と健康増進に大きな役割を果たしている。

また、「株式会社オーチャー」は、平成19年度から和田公園コミュニティプールの管理業務を受託しており、官公庁をはじめとする施設の維持管理や環境整備を主たる事業としている。

エ 指定管理料

指定管理者として2期の4年目となり、1期の期間が平成27年度から令和元年度まで、2期が令和2年度から令和6年度となる。(指定管理料総額、385,025千円)

オ 事業内容

菊川市スポーツ協会グループとして菊川市体育館3施設および菊川市体育施設を付帯する都市公園等7施設の指定管理事業を受託している。平成27年4月1日からの1期5年間(体育館のみの指定管理期間を含むと8年間)の指定管理の経験を活かし、2期4年目の指定管理業務を実施した。

令和5年度は、市受託事業の陸上競技選手権大会、静岡県市町対抗駅伝競走大会、県受託事業のしずおかスポーツフェスティバル、自主事業の菊川Cityマラソン大会、日独スポーツ少年団交流事業、前期スポーツ教室(9教室)、後期スポーツ教室(5教室)、和田公園コミュニティプールの開園36日間(昨年より7日増)などを実施した。

新型コロナウイルス感染症の流行により、多くのスポーツ大会が自粛及び中止となり、

市内体育館の利用も制限されていたが、感染症の分類が第5類に改められたことを受け、4年ぶりに陸上競技選手権大会や菊川 City マラソン大会を開催するなど、イベントの実施や利用者数が以前の状態に戻りつつある。

また、施設の維持管理については、常に安心・安全に使用できるように遊具の点検、除草作業や公園施設の修繕管理と故障・破損箇所の早期発見と対策を心掛け、市民がスポーツに親しむ環境の整備に努めている。

収支の状況は、体育施設利用料収入が前年度比 23.4%減の 7,620 千円、事業費収入が前年度比 71.4%増の 3,587 千円となり、収入合計は前年度比 0.9%減の 89,057 千円となった。一方、支出は人件費、事業費の増加により、前年比 6.8%増の 93,574 千円となり、収支差額は 4,516 千円の赤字となった。

カ 所見

指定管理料に係る出納その他の事務の執行は、法令等に沿って適正に行われているものと認められ、協定内容に即した事業執行がなされていた。

菊川市スポーツ協会は、市民の体力向上と健康増進をサポートするため、市のスポーツ振興に大きな役割を果たしている。協会の理念である「生活のなかにスポーツの楽しみと活力があるまち」の実現に向けて、スポーツの力で人とまちを活性化させるよう、安定したサービスの提供に努めている。

引き続き、市民が参加したくなるような「遊び」「楽しみ」のある活動を推進し、これまで積み重ねてきた経験と知識を活かすことで、市のスポーツ振興に貢献する活動がさらに広がっていくことを期待したい。

また、老朽化やその他の要因により体育施設・公園遊具などの劣化が見られる場合は迅速に対応するとともに、計画的な安全管理対策の実施を継続されたい。